



青春不再来

「青春不再来」は、大廊下に掲げられている木彫の言葉です。

「学習、生徒会、部活動などに、生徒は一生懸命です。悩んでいる生徒もいます。でも、どの生徒も、かけがえのない中学校生活を精一杯生きている。」という意味です。

[第54回卒業式式辞より]

夢・感謝・プラス思考

校長 大塚 啓

先月、日本の新たな主力ロケット「H3」の2号機が打ち上げに初めて成功した、というニュースが大きな話題となりました。この「H3」ロケットは、十年前に開発が始まり、2千億円を超える大事業で、打ち上げが成功するかどうか注目されていました。

実は、1年前の3月に打ち上げられた「H3」の1号機は、二段目のエンジンが着火せず打ち上げに失敗していました。JAXAや開発にかかわっている企業は、この失敗の原因究明に真摯に向き合い、全力を挙げて研究を重ね、今回の打ち上げに臨んでいました。

今回、打ち上げ成功が判明した時、テレビに映っていた映像には、開発責任者やその周囲にいるエンジニアの皆さんが抱き合って喜ぶ姿がありました。また、別の映像でも、JAXAの職員が喜びの涙を流す歓喜の姿が映っていました。この姿を見て、私は、この大事業が、多くの人々が思いを一つにして成し遂げられたものだということを再認識し、大きな感動を覚えました。

開発責任者の岡田匡史プロジェクトマネージャーは、今回の打ち上げの前に、一年前の打ち上げ失敗を振り返って次のような手記を残していました。そのほんの一部を抜粋して紹介します。

1年前、打ち上げ失敗を目の当たりにしたこの時ほど自分の無力さを感じたことはありません。…万全を期して臨んだ1号機の打ち上げは失敗に終わり、搭載していた大切な衛星も失ってしまいました。いくら念じても過去は変えられないどころか、朝起きると現実が日増しに厳しく感じられるようになりました。…原因究明には七ヶ月を費やしました。時には不安に襲われることもありました。暗闇の中で時間だけがどんどん流れていく感覚もありました。その間、私の気持ちを支えてくれたのは、ひたすら技術に向き合い、原因究明を続ける仲間の姿でした。多くの方々から技術面だけでなく、精神面からも支えられました。打ち上げの失敗は、決して許されるものではないのですが、1号機の経験を通じてエンジニアは本当に強くなったと思います。…H3ロケットで日本の宇宙輸送を変え、宇宙利用を支えたい。より豊かで幸せな社会を築きたい、宇宙を切り拓きたい、その思いは10年前も今も変わりません。

私は、この手記を読んで、開発責任者の岡田さんにかかる任務の重大性とプレッシャーの大きさ、そして、心の苦しみはこれ程だったのかと思い知らされました。と同時に、私は、この手記の中に3つの大切なマインドを見つけたのです。その1つ目は、「夢を大きくもつこと」、2つ目は、「高め合い、支え合う仲間に感謝の気持ちをもつこと」、そして3つ目は、「失敗や困難をプラスに捉えること」です。岡田さんは、この3つのマインドを持ち合わせることによって、この苦しい状況を乗り越え、プロジェクトを成功に導いたのです。新たな時代を担う卒業生の皆さんにも、今後の人生には、度合いの違いこそあれ、様々な困難が待ち受けているものと思います。辛く苦しい状況となったとき、どうか、「夢・感謝・プラス思考」を思い出して立ち向かえば、必ずや乗り越えていけるものと信じています。事が順調に進んでいるときにはおごらずに、逆境にあるときにはくさらずに、これから始まる長い人生に旅立って行ってください。

第54回 卒業証書授与式

別れの言葉

卒業生代表 山賀 陽太



私たちを引き留めるかのように降り出した名残り雪。もう少しここにいたいという私たちの気持ちが見透かされたようです。そんな中、私たち71名は卒業の日を迎えました。今、この場を迎えることができた喜びと、ここまで支えてくださった全ての皆様への感謝、未来への期待と不安、いろんな気持ちが入り交じり、嬉しくて、寂しくて、不思議な気持ちで今ここにいます。

3年前の春、少し大きめの制服に、大きな希望をポケットいっぱい詰めて、柿崎中学校に入学しました。初めての教室、初めて会う仲間たち。全てがまっさらで、緊張しながらも充実した毎日を送ることができました。しかし、1、2年生のころには、私たちにも新型コロナウイルスが襲いかかり、リモート授業など、思うように活動できない日々もありました。

そんな状況が少しずつ緩和され、迎えた3年生。「挑戦する柿中」のスローガンの下、全校一丸となって挑んだ体育祭。初めてマスクを外しての開催でした。短い準備期間では意見がぶつかったこともありました。そんな状況を一気に吹き飛ばしてくれたのは、声を枯らして指示を出すリーダーたちの必死の思いでした。みんなの心が一つにまとまりました。当日、私たちの思いが通じたのか、雨模様だった空は晴れ上がり、熱い戦いの中にも、笑顔があふれる、最高の体育祭になりました。みんなの力が一つになるとこんなにも高く飛べるんだ、と、あのとき味わった達成感、「柿中G O G O G O」は一生忘れることはないでしょう。その勢いそのまま、部活動でも大きな成果を上げることができました。その後続く合唱コンクール、修学旅行、ダンス発表会も全力で楽しむことができました。

そして迎えた冬休み。大きな地震が発生しました。生まれて初めてあんな大きな地震を体験しました。震源地の石川県ではたくさんの方が亡くなりました。私たちと同じ中学生の集団避難というニュースにも触れました。改めて、友だちと過ごす時間、家族と過ごす時間、当たり前前の日常がかけがえのない幸せなんだと感じました。



いよいよお別れの時間が近づいてきました。

在校生の皆さん、一緒に楽しみ、協力してくれて本当にありがとう。柿中生の元気はどこにも負けません。たくさんの挨拶と笑顔が飛び交う、すてきな柿中を作り上げてください。私たちはずっと応援し続けます。

先生、職員の皆さん。とにかく元気がありすぎて、脱線したこともたびたびあった私たちを、進路の実現に向けて時には優しく、時には厳しく指導してくださいました。ありがとうございました。これまでの教を胸に、私たちは夢や目標をかなえるために、全力で突き進みます。

辛いときや、悲しいとき、一番近くで支えてくださったのは家族の皆さんでした。中学生の私たちは、なかなか心が安定せず、ひどい言葉をぶつけてしまったこともありました。それでも、いつも応援してくださいました。そんな家族の存在があったから、安心して日々を送ることができました。恩返しができるようになるまでにはまだしばらくかかります。これからも私たちを見守ってください。

最後に、ここで出会い、3年間を一緒に過ごした3年生のみんな。今日でお別れです。卒業してお別れするのは寂しいけれど、みんなと過ごした3年間は決して消えることなく、心の中に残ります。それぞれの夢に向かって、ゆっくりと、一生懸命に歩いていきましょう。そしてまた会えたとき、思い出を語り合うことを楽しみに自分の道を歩きましょう。

それではお別れです。私たち71名は今旅立ちます。柿崎中学校卒業生としての誇りを胸に、新たな道で自分らしく生きていくことをここに誓い、お別れの言葉といたします。

みなさんさようなら。



送る言葉

在校生代表 八木 陽詩

米山の稜線が日に日に輝きを増し、春の訪れを告げています。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

「挑戦する柿中」

私たちは、このスローガンのもと、様々な活動を行ってきました。皆さんは、いつも私たちのよきお手本であり、精神的な支えでもありました。いつも情熱を胸に秘め、仲間と助け合って行動する姿は、グラウンドを駆け巡る風のようにたくましく、私たちにとって常に大きな存在でした。皆さんの「挑戦する」姿は、この1年の柿崎中学校の活動をけん引する原動力であったと、あらためて実感しています。



今も心に強く残っているのは、体育祭に向かう3年生の闘志です。

いつにも増してやる気にあふれた声や、全体をみて細かく指示を出すリーダーの態度に接し、私たち1・2年生の心も一気に体育祭モードに変わりました。また、普段仲の良い3年生が、体育祭当日は紅軍・青軍のライバルであることを言葉にも態度にもはっきりと表していて、その姿がとても新鮮でした。3年生の素直な感情表現も、体育祭を熱く盛り上げる要素の一つになるのだと気付かされました。

部活動において、感謝の気持ちと礼儀を大切にしていってくださったことも、忘れることはできません。

皆さんは、ともに汗を流した仲間や指導・応援をしてくださる多くの方と笑顔であいさつを交わし合い、また、日々の練習に打ち込めることに感謝の気持ちを表し、使った道具や施設を大切に管理していっていただきました。そのお陰で、私たちは自分を支えてくれる多くの人や物の存在に気付きました。また、感謝の気持ちをもって活動を行うことが当たり前なのだ学び、成長することができました。

日常生活の中にも、皆さんとの思い出がたくさんあります。

休み時間には、教室を移動するときのにぎやかな笑い声が響き、廊下ですれ違つくと、笑顔で手を振って声をかけてくださいました。昼休みになると、体育館で率先して体を動かし、バスケットボールやバレーボールの技術の高さを垣間見せてくださいました。

また、図書室にある様々なジャンルの本を読み、知識や想像力を豊かにした先輩もいらっしゃいました。3年生の皆さんが何気なく過ごしていたひとコマひとコマが、この1年間の思い出の一つとなって私たちの心に積み重なっています。

私たちは、「挑戦する柿中」生として、ともに歩いてきました。3年生の皆さんが示してくださった挑戦する姿勢を、私たちは受け継いでいきます。

卒業する皆さんも私たちも、これからそれぞれのステージは変わりますが、互いに柿中生としての誇りを胸に、「さらなる挑戦」へ向かって飛び立ちましょう。

多くのことを教えてくださった3年生の皆さんに感謝し、その未来が、これまでと同様、やさしさと情熱に満ちあふれていることを願って、送る言葉といたします。

各種表彰

バレーボール部	柿崎杯中学校女子1年生バレーボール交流会	4位			
	中之口杯女子バレーボール大会Bの部	1位			
美術部	第64回新潟県児童生徒絵画・版画コンクール				
	金賞	上野 瑠南(1-1)	滝澤 開治(1-2)	片桐 昊音(2-1)	藤山 千結(2-2)
	銀賞	佐藤 沙耶(1-1)	内藤あかり(1-2)	布施 佑弥(1-2)	
		石田 菜美(2-1)	小林 舞子(2-1)	小山 留璃(2-1)	小関 未菜(2-2)

ご報告

1月に生徒会の呼びかけで、能登半島地震支援の義援金募金を行い、**15,560円**の寄付をいただきました。義援金は日本赤十字協会に寄付しましたので、報告いたします。ご協力ありがとうございました。